

会報 第158号
発行日 平成29年12月1日
発行・編集 V・G 槻輪
代表者 大岡成一
http://web1.ibj.co.jp/~kirin

わがまち紹介

日本の社家の町にある

“京都府立植物園”

11月16日秋の薄曇りの絶好の写真日よりでした。植物園北門前で、カメラで写真の撮り方の指導をして頂く岩崎さんが迎えてくれました。彼は植物園の植物についても非常に詳しく、園内の珍しい木々の説明と写真を撮るのに良い場所等を案内して頂きました。本当に有難う御座いました。

京都府立植物園

京都府立植物園とは、京都市左京区下鴨半木町にある植物園です。京都府立植物園は、京都市街北部の平坦地に位置し、東は比叡山、東山連峰を望み、西に加茂の清流、北は北山の峰々を背景とした景勝の地にあります。

京都市左京区下鴨

日本の首都が平安京に移る前から賀茂氏一族が住んでいた地域であり、賀茂氏の氏神であった賀茂別雷神社(上賀茂神社)と賀茂御祖神社(下鴨神社)のうち、下鴨神社の周辺を指して下鴨と呼ばれるようになった。上賀茂・下鴨神社の社領であったため近代に入るまで仏教寺院が建てられたことはなく、のどかな農村地帯であった。

上賀茂神社と下鴨神社同じカモという文字を使った神社ですが、上賀茂神社と下鴨神社の名称は元々は「賀茂社」と「賀茂社」と総称されていました。それぞれの神社の正式名称

はというと上賀茂神社を「賀茂別雷神社」、下鴨神社を「賀茂御祖神社」と、それぞれの「祭神も賀茂別雷神」と「賀茂建角身命」となっている正式名称で見ると、どちらの神社にも賀茂という文字が使われていたのが分かります。



岩崎さんから多くの木々の説明や見どころを説明

大正6年に着工し、同年11月1日に大開園記念式典として開園しました。第2次大戦中は園内に菜園が設けられ食糧増産の場になり、戦後は昭和21年から12年間連合軍に接収されました。



池に映る紅葉と幹の力強いコントラスト

このとき多くの樹木が伐採されるなど苦難の時代が続きましたが、昭和36年4月、憩いの場、教養の場としてその姿を一新し、再び公開しました。

平成26年には開園90周年を迎え、植物園が府民の憩いの場に加え、自然に對する親しみと敬いの心を育む、花・緑の活動の拠点として、また、学習・教育の場としての社会的役割がますます高くなっており、今後さらに増加し多様化するこ



開園当初に植えられたクスノキの並木は樹齢100年といわれ、川端康成の『古都』にも登場している自然遺産といつてよいほどのものです。

2017年秋の台風で多くの古木や太い枝が折れた。有名なクスノキの並木も多くの枝が折れ手入れされて透け透け通りになっています。

とが予想される利用者のニーズに対応すべく、情報の提供や新たなプログラムの創設などさらなる内容充実をはかっています。園内の南半分には、正門付近の1年草を中心とした四季の草花が鑑賞できる正門花壇と観覧温室及びバラを中心とした造形花壇、噴水や滝のある沈床花壇よりなる洋風庭園などの人工的な造形美で構成されています。中でも、観覧温室は、キョウワテンガイやバオバブなど世界の熱帯植物が身近に観賞でき、規模、植栽植物の種類ともに日本最大級の温室となっています。

半木神社

半木神社は現在ではかつての姿を留めていませんが、下鴨半木町の鎮守神として、また京都の織物発祥の地にある神社、農事林業らを総括する植物園の守り神として崇敬され、植物園内の神社周辺の森は半木(なからぎ)の森と呼ばれ、古代山城盆地の植生を残す貴重な自然林として保存されています。また、毎年四、十一月の二十日に行われる春秋の祭典には、織物関係者等が多数訪れるという事です。

さらに、植物園の多くの木や花が実を結ぶというところから、園内にある半木神社は試験の合格や恋愛成就の願いがかなうとの信仰が厚く、本社の賀茂別雷神社では努力が実を結ぶ「実守」という御守りを授与しているといつことです。

2017年12月度行事予定

“大阪の心臓部として業務地・文教地区のまち”

大手町

月 日:平成29年12月7日(木)
集 合:大阪府警察本庁舎玄関前 集合時間:10:45
内 容:大阪府警本部本庁舎見学
その他:1)雨天決行
2)詳細は別途配布資料を参照下さい。

2018年1月度行事予定

“京街道の枚方宿場町を散策しましょう!!”

枚方宿鍵屋資料館(料亭時代の文化を)

月 日:2018年1月22日(月)
集 合:京阪枚方駅 集合時間:10:00
内 容:枚方宿場町・枚方宿鍵屋資料館
その他:1)雨天決行
2)詳細は別途配布資料を参照下さい。